

アメリカの食文化と異文化体験

情報文化学科 2年 西海土 慎也

私がアメリカに行って体験したものはたくさんありますがその中でも食文化に焦点を当てて書いていきたいと思います。私はアメリカに行く前から様々な映像やイメージ、アメリカの友人から聞くジャンクな食生活一辺倒な考えでした。確かに私がアメリカに着いてすぐは学食のビュッフェ方式だったので自分の好きなものばかり食べて栄養バランスなどは全くと言っていいほど考えていませんでした。しかしタコス物を物珍しいからと食べ続けて1週間ほど経ってからの出来事でした。寮の自分たちの部屋がタコスの臭いで充満していたのです。ジムに行って筋トレをしてから帰ると、気付けば自分の体からタコスの臭いがしました。それからは偏食をしない様に気を付け、バランスの良い食事にシフトして行きました。周りの人たちを観察してみると偏食家の人もいましたが逆にベジタリアンの人もいたり友人の中には日本食などが好きな人もいたりしました。ビュッフェ方式なのですが多くの日本人とは違い大量の食べ物を最初にとり、残して捨ててしまう人も一定数存在しました。そこに文化の違いやマナーの違いというものを考えさせられました。食生活の中にも多様性が見て取れました。教会に行った後では一緒にお祈りしてから食事をするというのも私には新鮮でした。食文化というものが宗教や歴史とも強く結びついていることを感じられました。Thanks giving dayに食に感謝するというのも日本に近いようですが成り立ちは全然違うものでした。また人種の多様性とともに関文化も同じ国の中で様々に分岐し日本食も味わうことができました。アメリカナイズされていたのであくまで「American Japanese food」ではありましたがその土地の味というものを理解することができました。またハンバーガーも多種多様でバンズにただ肉を挟んだものからコーラの缶より大きいステーキハンバーグを挟んだモンスター級のものまでありました。日本で言えばお気に入りの定食屋の様にたくさんの方がお気に入りのハンバーガーグリルを持っていました。シックな昔ながらのハンバーガー店にはジュークボックスが置いてあり、まさにアメリカのイメージでした。授業の中で聞いた話では昔と違いデスクワークが増えた現代社会と食事量のギャップが肥満に繋がっているとのことでした。また低所得者層の方がいわゆるジャンクフードに食事が偏り、アメリカ社会の肥満率を押し上げているということも聞きました。食文化からでも多彩な異文化の側面を知ることができました。思うことがたくさんあったのでこれから整理し、フィードバックしていきたいと思います。